

VNAを活用した安全・効率的なAI等の診断支援アプリケーションの運用に関して

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 ヘルスケア・デジタル本部 | 大森孝憲

はじめに

GEヘルスケアでは、ベンダー・ニュートラル・アーカイブ(VNA)を活用して、AI等の技術を搭載した画像診断支援アプリケーション(以降、AI等のアプリケーション)を効率的に運用するソリューションであるOpen AI VNA(OAV)の販売を2023年4月に開始した。本稿では当ソリューションの概要を紹介する。

データを統合管理し、活用を促進するためのVNA

OAVを説明する前に、まず、画像データ活用の基盤となる当社のVNAに関して説明する。現在、院内では提供ベンダーが異なる様々な画像システムや専門ビューワが必要とされているが、画像データはこれらの個別サーバに分散して保存・運用されていることが多い。VNAは、これら個別サーバに保存されている画像デ

ータを、標準規約に則って特定ベンダーやシステム仕様に依存すること無く、統合管理するシステムである。当社では、VNAをデータの統合管理に留めず、院内外でのデータ活用の基盤と位置付け、様々なデータ活用ソリューションを提供している(図1)。既設の基幹システムの運用は維持しつつ、VNAをバックアップと位置付けてデータ集約し、そこから活用につなげていくケースも多い。

院内におけるデータ活用のひとつに、オープン・コネクト・データベース

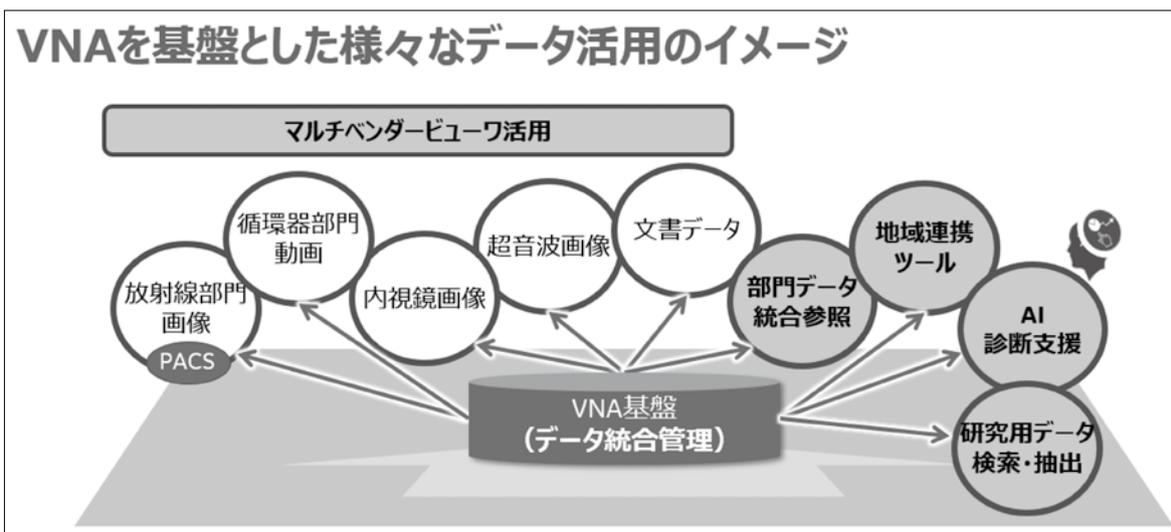


図1 VNAを基盤とした様々なデータ活用